時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
○一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受グ
月賦日、大祭祭日の翌日并ニ歲末年首等他の新聞紙休刊の日のみに時事新報の配達は一ケ月前金八錢ずつ但し郵便配達の地方は此外一枚に付一錢を申受ク

時事新報廣告料前金

一行廿四字詰五號活字ニテ	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報廣告

萬國●神田區佐柄木町廿一番地 丸亦精英堂
無雙 賣買 古本委托販賣廣告イ
便利●并ニ和漢洋古本高價買入業ハ從前ノ通

時事新報

國會の安產を祈る

毎年相變りもなき事ながら新年の元旦とし云へば貧富老若を問はず皆欣々として一年の延喜を願ふは千百年來の常例なり記者も年首には天下の樂を連れて凡そ不平心配を屬する筋のものは一切之れを念慮の外に放逐し何事にもあれ先づ芽出たしとして聊か憂意を失はざる積りなれども常に人事の有樣を望見するに十中七八芽出たき事は其芽出たき割合に心配も亦隨て大なるの習ひとして例へば姙娠の如き纔て玉兒を擧ぐるの未來を推測して喜んで祝賀を表するとなれども彌々分娩の其時に當り萬一意外の事共あらんかとて裏面の心配は直ちに之に伴ひ來り竊に其無事を祈るの心遣ひは中々以て無量のものたるを知るべし左れば我輩が芽出度新年の今日に當り猶ほ獨り懸念に堪へざるものは同じく是れ出產のことにして我國にては去る明治十四年始めて官民の間に國會を孕み爾來指を屈すれば今年は正に第九箇年目にして之を人間の懷姙に擬するに年と月との相違あれども此年は恰も臨月なり只ならざる大事の姙娠にして全國の悲喜浮沈懸けて此一擧にあるとあれば其準備云々の議は數年前來官民の間に喧しく年月の業迫るに隨ひ何となく忙しき樣子にて野に在る者は諸方に游說して政黨の組織に奔走し朝に於ては憲法の制定、財政の取調等百事に不都合なからしめんとて頻りに周旋する趣なれども此有樣にして推移りつゝ明年に至りて果して滿足なる安產を見るべきや否や幸にして無事靜穩なることを得ば全國の幸福此上もなくして其孝出ださも亦れも過ぐるものある可らずと雖も實際の成行は今より豫定すると甚だ難く或は言論を容るゝの地積案外狹小なるとあらんか或は地積廣きも歩武を遮ぎるとあらんか、議員は言論を抛つとあらんか、手負猪の狂勢當る可らざるものあらんか、近々發布すべき憲法に於て其一部分は之を窺ふを得べしと雖も憲法の文面よりは開設の後ふそ大事あれ數是れと一々消極的に思案を運らし來るときは懸念を要する次第少なからざるのみか更に一方より考へれば其發布の意法に付き如何なる事情を惹起して開會に先だち何等かの故障を生ずるとなしとも云へ可らず世人が國會に望を屬する所は多くは積極的に在るものゝ如しと雖も我輩は之に反し消極的を配慮して必常に安らかざるを覺ゆ、嗚呼あれ新年は芽出ふかるべし其芽出たからんことを欲すると共に偏に國會の安產を祈りて止まざるなり

讀者と共に春を賀す

出版事業の未だ眞ちざりし以前にありては今日の如く新聞紙の便利とてもなければ、世人は天下の事情を窺ひ知見を啓ふんと欲するにも常に隔靴搔痒の歎を免かれず、して僅に身邊至近の狀態を見聞するに過ぎざりしが文明の進歩は一朝端なく其欠點を補ふの良機關を興へてより何人と雖も此利を利するものは日本國內は云ふに及ばず遠く海外の出來事までも坐して日々の新報に接するを得るに至れり扨かく便利の世界となりたる上は便利は則ち尋常と變するが故に苟も新聞紙を閱讀せざるものは恰も社會に生存したる甲斐なき樣の姿として一日、目を新聞紙上に放たざるときは二日の壽命を空ふ其一日を損じ二日、目を閉るときは人生五十年のしたるものと云はざる可らず即ち出版術の發明は人間の壽命に生きながら長短の別を與へたるものにして換言すれば新聞紙は人壽の長短を支配すと稱して不可なき次第のものあれば苟も社會人事の運動已まざる限りは年中一日たりとて休刊すべき筈のものに非ず右の故を以て時事新報は一昨年の十一月より元日、大晦日、祝日、祭日は云ふも更なり通常各新聞社の休業する每週一度の日曜日も亦是れ人壽の一部分なりと認定して一年三百六十五日打通し無休刊と定めたるとなれば時事新報の讀者は他の新聞の讀者に比して少なくとも十二ケ月の上に於て二ケ月爵の壽命を加へ而して時事新報は六十號許の紙壽を增したるの算用なり抑も新壽年を改むれば茲に始めて鳥兎の匆々たるに驚き〳〵て而して往事を顧るは蓋し人生の習ひなり新年の慶事忙はしく人の往來も賑々しき中に於て我輩は靜に筆を執りて昨年中日本國內に起りたる諸般の事件を回顧すれば政治上に經濟上に社會上に學問上に交々讃者と共に喜憂すべきもの少なからずと雖も人身に離れ難き壽命の一點に於て先づ第一に怡悅の情を發せずんばあらず茲に新年の賀儀として人爲に壽命を增したるの次第を陳ぶると云爾

官報

○文部省令第一號
明治十九年(五月)文部省令第十號第九條尋常師範學校生徒員數表中德島縣ノ次ニ香川縣ヲ插入シ其生徒員數ヲ百二十名トシ愛媛縣ノ生徒ヲ百四十名ト改ム
明治二十二年一月十日 文部大臣子爵森有禮
○大藏省告示第一號
福井縣下福井國庫金出納所吉江出納支所ノ儲本年一月十日ヨリ丹生郡西田中村ヘ移シ西田中出納支所ト改稱ス
明治二十二年一月十日 大藏大臣伯爵松方正義
○遞信省告示第二號
武藏國本所區竹之鄕元町郵便貯金預所ヲ同區中之鄕竹町ニ移シ中之鄕郵便貯金預所ト改稱シ本月十六日ヨリ其事務ヲ繼續取扱ハシム
明治二十二年一月十日 遞信大臣子爵榎本武揚
○辭令
公務上異常之勉勵ニ付其賞トシテ金百三十圓下賜ス
控訴院評定官 中田 憲信
控訴院評定官 山岡 愃
控訴院評定官 由布貳三郎
檢事 岡田 豊
司法書記官 出浦 力雄
（各通）
金五十八圓 控訴院評定官 中田 憲信
令四十一圓 控訴院評定官 山岡 愃
金四十一圓 控訴院評定官 由布貳三郎
金五十八圓 檢事 岡田 豊
公務上異常勉勵候ニ付金（各頒書ノ金額）圓賞與ス
始審裁判所判事 片桐當太郎
始審裁判所判事 杉原佐一郎
檢事 北川 信從
（各通）
金五十一圓 始審裁判所判事 堀 眞五郎
金四十一圓 檢事 野崎 啓造
金六十一圓 始審裁判所判事 三浦 芳介
公務上異常勉勵候ニ付金（各頒書ノ金額）圓賞與ス
始審裁判所判事 內藤 直亮
始審裁判所判事 安藤源五郎
始審裁判所判事 伊地知光定
檢事 福原 直道
檢事 岡野 正理
檢事 松岡 鯨之
檢事 村井 一英
檢事 永井 次郎
（各通）
金五十五圓 始審裁判所判事 內藤 直亮
金二十七圓 檢事 福原 直道
金二十二圓 檢事 岡野 正理
金三十八圓 檢事 松岡 鯨之
金三十三圓 檢事 村井 一英
金十六圓 檢事 永井 次郎
公務上異常勉勵候ニ付金（各頒書ノ金額）圓賞與ス（以上昨年十二月二十八日同）
○樞密院移轉 樞密院は去る八日宮城內へ移轉せり

雜報

○約束遂に行はれず 曩ろ伊藤伯が內閣總理大臣の位置を占めたる折柄政府部內ろ大改革を行ひ冗員を沙汰し經費を節制し各官衙高等官の人員を限り一方ろは官吏登庸試驗法を設けて官途の門戶を引締り更に種々の約束を立て出勤退出の時刻を嚴正し事務室にて公用外の書籍新聞を讀むを禁じ又茶烟草を用ふるを許さゝるなど總て內部の規律を嚴ふし少數の人員を充て其執務時間一念公務に當り迅速に事務の擧るを主とし大ろ官廳の面目を一新したるは社會進歩の結果なりとは云へ伊藤內閣の施政中最も顯著なる出來事なるべしと云へり併し年月の經過するろ從ひ嚴重なる規律も次第ろ緩み爾來各官吏の員數を增して經費の節減も行はれず高等官吏中には事務家が忽ち變じて技師となるもあり敎論轉じて外交官と爲り會計吏と爲るもあるなど前門には登庸試驗を實施しつゝ後門には之を潛りて頭角を顯はす向きも少からず又彼の出勤退廳の時刻も何樣やら不揃ろ成行きたる樣子にて或る部分にては局長次長其他の高等官の如きは往々午前十時十一時又時としては午後に至り出勤するともあるより判任官中にも或は遲刻出廳する向きもあるに至り又新聞書籍も勝手ろ事務室に持込み茶煙草の制禁も漸く解け去りて今は既ろ改革前の有樣と異なるとあく事務は減じて官吏のいよ〳〵增したるが爲め諸官廳とも吏員は概して閑散ある姿なりと云ふ

○證賣 福嶋縣書記官永峯彌吉氏は知事代理中の事務ろ不都合の廉ありとて證賣され昨十日の官報に左の如く見えたり

福嶋縣書記官 永峯彌吉
知事代理中二十二年度尋常師範學校費豫算額を縣會の再議ろ附するに當り文部大臣の認可を經ざる段不都合に付證賣す

○香川縣會議員の數 林香川縣知事は壽臘廿七日告示第二號を以て香川縣縣會議員の總數を三十六名とし本月中ろその撰擧會を開くべき旨夫々通達したるよし

○後藤伯漫遊日錄 (十五報)
五日 午前九時伯は一行及び來迎の諸氏と共ろ汽を發し越後絲魚川ろ向ふ三里ろして市振村ろ着し小憩の上伯は籠輿ろ乘り他は腕車を雇ひて有名なる親不知の險を越ゆ時に北風剪々鋭刀の如く寒氣凜烈膚膚ろめ人裘けんばうりうあり忽ちにして滿空雪を吹き下し紛々翻々山は玉を積むが如く水は銀を擧くに似たり眞ろ天下の奇景と謂ふべし之に加ふるろ海濤萬里碧水渺茫として際涯あるなし一行は愛ろ至つて暫ろ之を守り氣宇の壯快ある を感じたり已ろして親不知を過ぎ外波ろ至りて一憩し午餐を喫したる後夏待ぎと三里青海ろ至り伯は籠輿を捨て腕車ろ移り行くと數里ろして午後五時絲魚川に着し善導寺ろ投ず例ろ因て伯は懇親會に臨み拍手喝采の聲ろ誘はれ亘り大ろ濟ふ

○三池炭礦ニ付金（各頒書ノ金額）圓賞與ス（以上昨年十二月二十八日同）
○樞密院移轉 樞密院は去る八日宮城內へ移轉せり

雜報

○約束遂に行はれず 曩ろ伊藤伯が內閣總理大臣の位置を占めたる折柄政府部內ろ大改革を行ひ冗員を沙汰し經費を節制し各官衙高等官の人員を限り一方ろは官吏登庸試驗法を設けて官途の門戶を引締り更に種々の約束を立て出勤退出の時刻を嚴正し事務室にて公用外の書籍新聞を讀むを禁じ又茶烟草を用ふるを許さゝるなど總て內部の規律を嚴ふし少數の人員を充て其執務時間一念公務に當り迅速に事務の擧るを主とし大ろ官廳の面目を一新したるは社會進歩の結果なりとは云へ伊藤內閣の施政中最も顯著なる出來事なるべしと云へり併し年月の經過するろ從ひ嚴重なる規律も次第ろ緩み爾來各官吏の員數を增して經費の節減も行はれず高等官吏中には事務家が忽ち變じて技師となるもあり敎論轉じて外交官と爲り會計吏と爲るもあるなど前門には登庸試驗を實施しつゝ後門には之を潛りて頭角を顯はす向きも少からず又彼の出勤退廳の時刻も何樣やら不揃ろ成行きたる樣子にて或る部分にては局長次長其他の高等官の如きは往々午前十時十一時又時としては午後に至り出勤するともあるより判任官中にも或は遲刻出廳する向きもあるに至り又新聞書籍も勝手ろ事務室に持込み茶煙草の制禁も漸く解け去りて今は既ろ改革前の有樣と異なるとあく事務は減じて官吏のいよ〳〵增したるが爲め諸官廳とも吏員は概して閑散ある姿なりと云ふ

○證賣 福嶋縣書記官永峯彌吉氏は知事代理中の事務ろ不都合の廉ありとて證賣され昨十日の官報に左の如く見えたり

福嶋縣書記官 永峯彌吉
知事代理中二十二年度尋常師範學校費豫算額を縣會の再議ろ附するに當り文部大臣の認可を經ざる段不都合に付證賣す

○香川縣會議員の數 林香川縣知事は壽臘廿七日告示第二號を以て香川縣縣會議員の總數を三十六名とし本月中ろその撰擧會を開くべき旨夫々通達したるよし

○後藤伯漫遊日錄 (十五報)
五日 午前九時伯は一行及び來迎の諸氏と共ろ汽を發し越後絲魚川ろ向ふ三里ろして市振村ろ着し小憩の上伯は籠輿ろ乘り他は腕車を雇ひて有名なる親不知の險を越ゆ時に北風剪々鋭刀の如く寒氣凜烈膚膚ろめ人裘けんばうりうあり忽ちにして滿空雪を吹き下し紛々翻々山は玉を積むが如く水は銀を擧くに似たり眞ろ天下の奇景と謂ふべし之に加ふるろ海濤萬里碧水渺茫として際涯あるなし一行は愛ろ至つて暫ろ之を守り氣宇の壯快ある を感じたり已ろして親不知を過ぎ外波ろ至りて一憩し午餐を喫したる後夏待ぎと三里青海ろ至り伯は籠輿を捨て腕車ろ移り行くと數里ろして午後五時絲魚川に着し善導寺ろ投ず例ろ因て伯は懇親會に臨み拍手喝采の聲ろ誘はれ亘り大ろ濟ふ

○三池炭礦ニ付金（各頒書ノ金額）圓賞與ス（以上昨年十二月二十八日同）
○樞密院移轉 樞密院は去る八日宮城內へ移轉せり

雜報

○約束遂に行はれず 曩ろ伊藤伯が內閣總理大臣の位置を占めたる折柄政府部內ろ大改革を行ひ冗員を沙汰し經費を節制し各官衙高等官の人員を限り一方ろは官吏登庸試驗法を設けて官途の門戶を引締り更に種々の約束を立て出勤退出の時刻を嚴正し事務室にて公用外の書籍新聞を讀むを禁じ又茶烟草を用ふるを許さゝるなど總て內部の規律を嚴ふし少數の人員を充て其執務時間一念公務に當り迅速に事務の擧るを主とし大ろ官廳の面目を一新したるは社會進歩の結果なりとは云へ伊藤內閣の施政中最も顯著なる出來事なるべしと云へり併し年月の經過するろ從ひ嚴重なる規律も次第ろ緩み爾來各官吏の員數を增して經費の節減も行はれず高等官吏中には事務家が忽ち變じて技師となるもあり敎論轉じて外交官と爲り會計吏と爲るもあるなど前門には登庸試驗を實施しつゝ後門には之を潛りて頭角を顯はす向きも少からず又彼の出勤退廳の時刻も何樣やら不揃ろ成行きたる樣子にて或る部分にては局長次長其他の高等官の如きは往々午前十時十一時又時としては午後に至り出勤するともあるより判任官中にも或は遲刻出廳する向きもあるに至り又新聞書籍も勝手ろ事務室に持込み茶煙草の制禁も漸く解け去りて今は既ろ改革前の有樣と異なるとあく事務は減じて官吏のいよ〳〵增したるが爲め諸官廳とも吏員は概して閑散ある姿なりと云ふ

○證賣 福嶋縣書記官永峯彌吉氏は知事代理中の事務ろ不都合の廉ありとて證賣され昨十日の官報に左の如く見えたり

福嶋縣書記官 永峯彌吉
知事代理中二十二年度尋常師範學校費豫算額を縣會の再議ろ附するに當り文部大臣の認可を經ざる段不都合に付證賣す

○香川縣會議員の數 林香川縣知事は壽臘廿七日告示第二號を以て香川縣縣會議員の總數を三十六名とし本月中ろその撰擧會を開くべき旨夫々通達したるよし

○後藤伯漫遊日錄 (十五報)
五日 午前九時伯は一行及び來迎の諸氏と共ろ汽を發し越後絲魚川ろ向ふ三里ろして市振村ろ着し小憩の上伯は籠輿ろ乘り他は腕車を雇ひて有名なる親不知の險を越ゆ時に北風剪々鋭刀の如く寒氣凜烈膚膚ろめ人裘けんばうりうあり忽ちにして滿空雪を吹き下し紛々翻々山は玉を積むが如く水は銀を擧くに似たり眞ろ天下の奇景と謂ふべし之に加ふるろ海濤萬里碧水渺茫として際涯あるなし一行は愛ろ至つて暫ろ之を守り氣宇の壯快ある を感じたり已ろして親不知を過ぎ外波ろ至りて一憩し午餐を喫したる後夏待ぎと三里青海ろ至り伯は籠輿を捨て腕車ろ移り行くと數里ろして午後五時絲魚川に着し善導寺ろ投ず例ろ因て伯は懇親會に臨み拍手喝采の聲ろ誘はれ亘り大ろ濟ふ

本會擴張之爲岡部千城外一名本日ヨリ關西地方ヘ出發ス仍テ此段地方諸君ニ告ク
東京々橋區鍋地三丁目八十五番地 大日本護國會本部
來十二日(第二十曜日)午後一時本會々堂厚生館ニ於テ第七十五回小集會相開候間御來會相成度此旨在京會員諸君ニ廣告ス但當日演題並宿題ヘ左ノ如シ
日本農業組織論 產業守秋君●嶋根縣下牧牛實況 山口辰次郎君●桑樹病蟲害鑑防ノ注意 小野孫三郎君